

事業の実施内容及び実績に関する報告書

申請団体名 青梅市みどりと水のふれあい事業推進協会

事業名	『青梅の森』保全事業
構成メンバー	協議体名：青梅の森運営会議 行政：青梅市 NPO等：青梅市みどりと水のふれあい事業推進協会 ：NPO法人 青梅りんけん ：西多摩自然フォーラム ：青梅青年会議所 ：社会福祉協議会
地域の課題	青梅の森は、注目種を含めた様々な動植物が生息し、豊富な自然環境が残る場所です。市街地に隣接していることもあり、市民にとって最も身近で重要な環境資源です。しかし、青梅の森は一見自然豊かに見えますが、過去に住宅開発が予定されていたため、手入れがされないまま40年以上放置され、樹木の生育環境として良い状態であるとはいえ荒廃した森となっています。この森をかつてのような良好な里山となるよう、適正な管理の手を加え、木材資源の利用を図るなど、二酸化炭素の排出削減に寄与し、生物多様性の回復と保全につなげていく必要があります。また、森内の資源の利用を通じて、市民の生活と森林との生き生きした関係を復活するため、野生生物の生息環境等を保全し、良好な樹林状態を回復することを基本に、市民の身近な環境学習の場、レクリエーションの場等豊かな自然を体感できる場として未来へ引き継いでいくことが課題です。
事業の概要	青梅の森を、かつてのような良好な里山となるよう、平成22年1月に特別緑地保全地区として都市計画決定し、保全・整備・運営を行うため、平成22年7月『青梅の森事業計画』を策定しました。この事業計画をもとに、野生生物の生息地等を保全し、市民(都民)の身近な自然で学習・体験・レクリエーション等に利活用していきます。しかし、91.7haにおよぶ広大な森を行政の力だけで保全・整備・運営を進めていくことは困難です。そのため、NPOや市民(都民)ボランティア、学校関係、企業、他の自治体等との協働により管理運営するための組織づくりを行います。さらに、未来へ引き継ぐための継続的な事業展開のため、NPOの育成を図り、市民と青梅市、企業等が一体になり、自然環境に配慮しつつ活用していきます。
マルチステークスホルダーの概要	青梅の森運営協議会の設置に向けて、組織づくりを効率的かつ円滑に行うため、関係団体や庁内の関係部署との調整等を進めていきました。青梅の森運営協議会設置のための委員会を平成24年8月に発足しました。委員会は青梅の森事業計画策定時の検討委員が所属する青梅青年会議所の代表者に委員長を務めていただき、NPO法人青梅林業研究グループ(青梅りんけん)の代表者に副委員長を務めていただきました。その他、里山保全活動グループ(西多摩自然フォーラム)、青梅青年会議所、青梅市の外郭団体であるみどりと水のふれあい事業推進協会(みどり協会)、青梅ボランティア・市民活動センターを有する社会福祉協議会、青梅市(公園緑地課)の6社で構成し検討しました。平成25年3月に青梅の森運営協議会を正式に設置し、平成25年4月より、青梅の森全体を永続的に保全するための体制や規則を制定するなどの実施をしていきます。

事業実施の内容

青梅の森事業計画をもとに、NPOや市民(都民)ボランティア、学校関係、企業、他の自治体等との協働により管理運営するための組織づくりとして、青梅の森運営協議会の設置のための委員会を平成24年8月に発足し、5回の検討会を経て、平成25年3月に青梅の森運営協議会を設置しました。

平成25年度より青梅の森運営協議会を稼働させ、市民や企業等が青梅市と一体になり、自然環境に配慮しつつ活用していくための会議、研修を行うための拠点施設を整備しました。

また、青梅の森で市内外の多くの人と協働・連携できるよう、平成24年11月23日にシンポジウムを開催しました。167人もの人々に参加していただき、アンケートを実施した結果、青梅の森での保全の方向性について96%の賛同を得ることができました。さらに、広報おうめを48,000部作成し、43,250部を各家配布しました。残りの4,750部は窓口で配布していきます。

事業実施上の課題

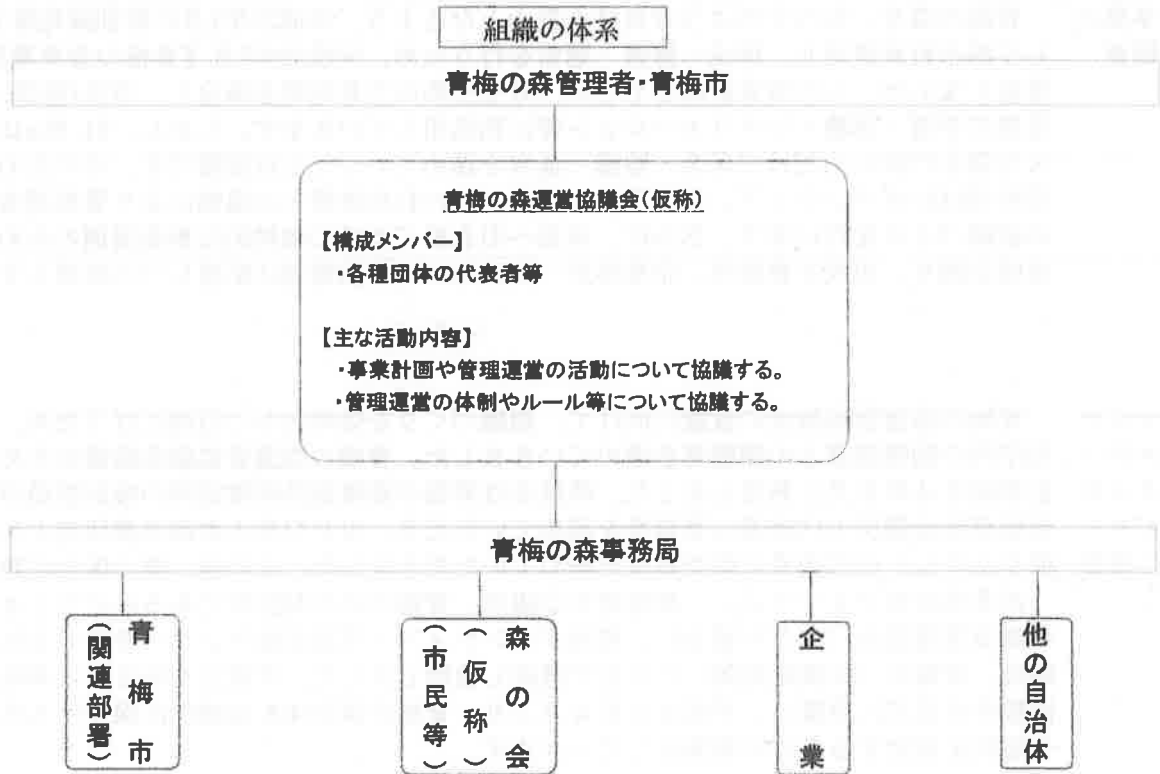
シンポジウム開催にあたり、予想以上に反響が大きく、会場の都合上定員を超えた分の参加をお断りした。

運営協議会設置のための委員会では、様々な立場の人が集まり制度や規則を作るための意見の調整に苦心しました。

協議会では市民や企業、学校、他の自治体等とさらに委員が増員となることから、意見の調整がさらに困難になることが予想されます。

モデルとしてのNPO・行政等に照会する仕組み

本来の里山は、伐採して植林するなど循環型となる保全が理想ですが、化石燃料の依存によって、本来の森林がもつ重要な役割が保てなくなっています。人が関わることで維持できる里山を良好な状態で保全し、市民等と協働して自然とふれあえる貴重な財産として、未来に引継いでいきます。そのため、事業計画で行う予定の取組について、どここの場所にとの取組をあてるのかゾーン分けし、積極的に伐採・植林を行う場所や、荒れた森を好む貴重な動植物のために観察中心の保護区域等を設けていきます。

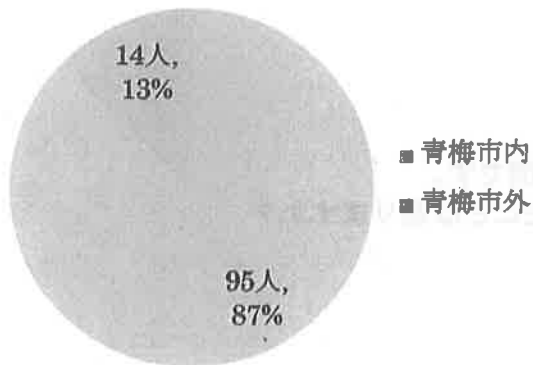


これら、青梅の森を保全するための取組を円滑に行うため、組織を構築し、体制や規則を策定し、実施していきます。

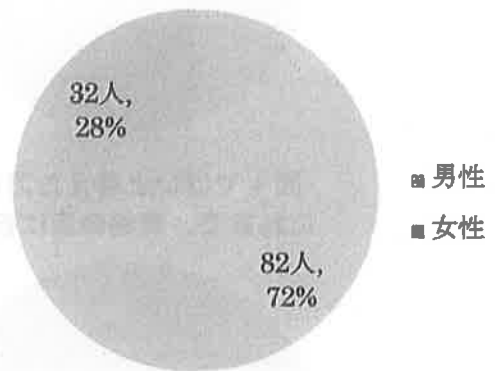
青梅の森シンポジウムアンケート集計結果

1.1 参加者情報

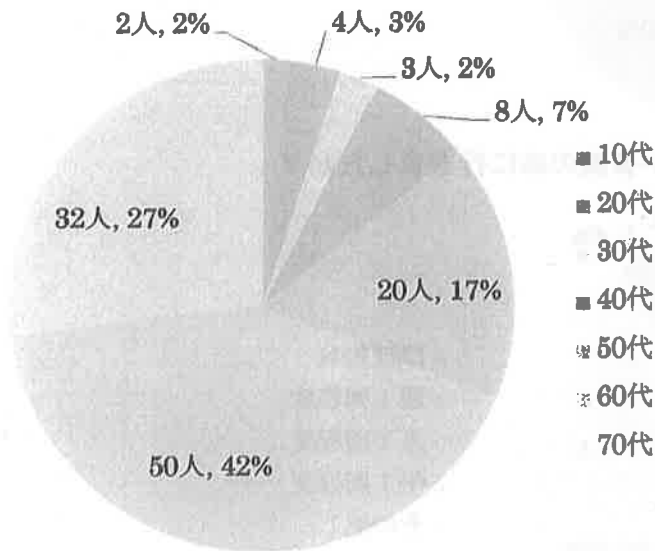
○参加者居住地



○男女比

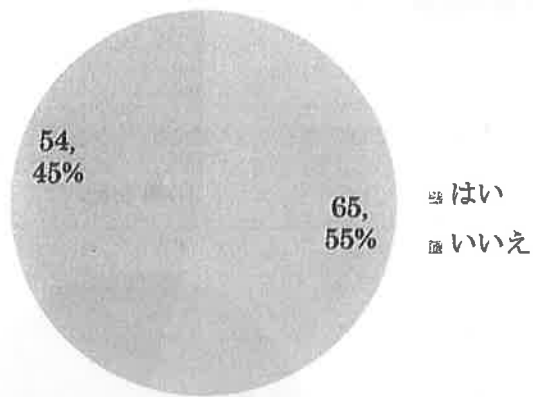


○年齢層

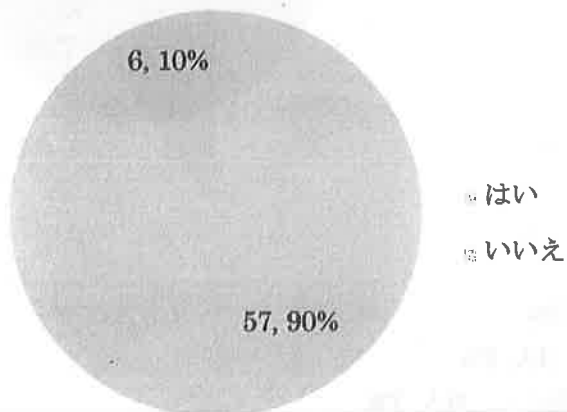


1.2 回答

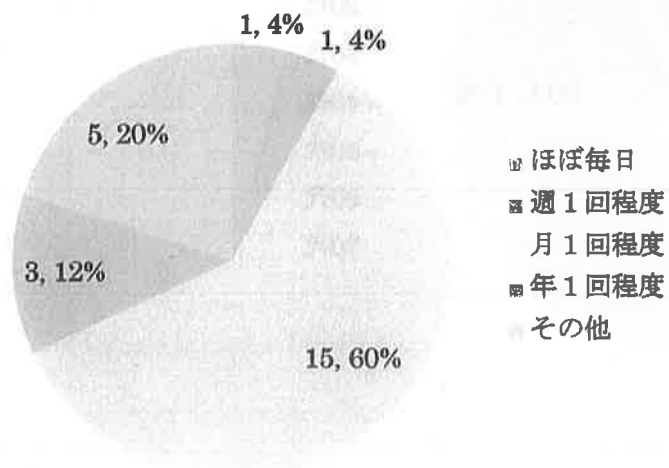
(1) 青梅の森の取り組みをご存知でしたか？



問1ではいと答えた方に質問です。
 これまで、青梅の森に行ったことはありますか？

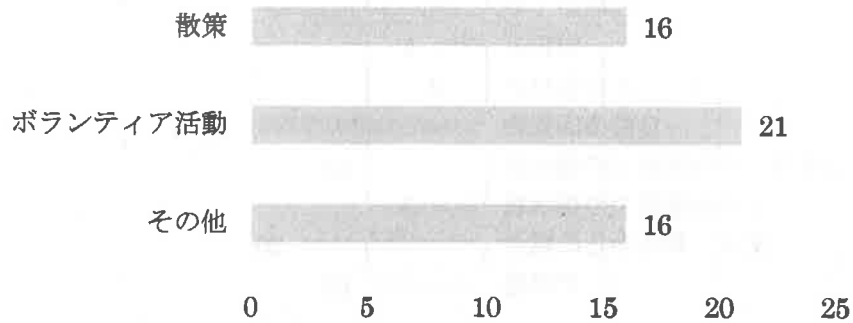


直近1年間で、どのくらい青梅の森に行きましたか？



その他:「5回程度」(三名)、「最近は行ってない」(二名)、「なし」(二名)、「週2回必ず行きます」、「年4~5回」、「3か月に1回位」、「年3回」、「20回」、「2~3回」、「1回」、「子供のころは遊びに行っていました。」

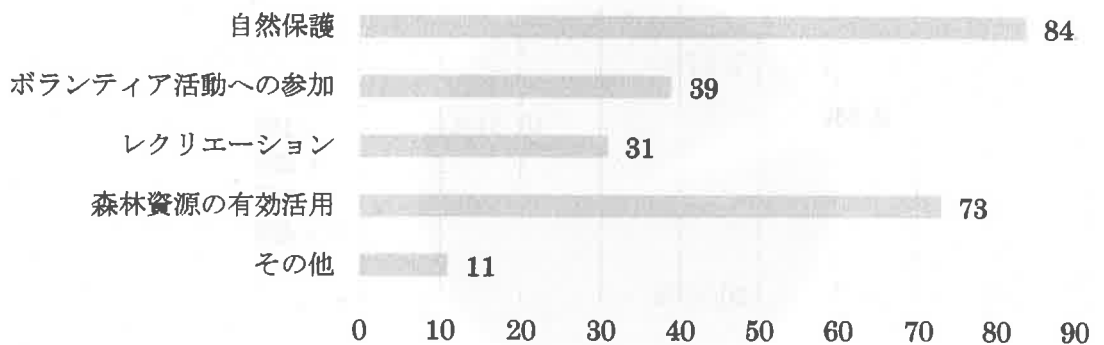
青梅の森に行った目的は何でしたか？（複数回答可）



ボランティア活動:「森林ボランティア、除伐、道の整備等」「森守会の活動地」「市民ボランティア講座」「森林整備活動、技術研修」「道に落ちた枝の整備」「青梅の森の保全活動」「森林保全」「黒沢で下草刈り」「森林の下草刈り」「さかきの切り取り」「植生調査」「子供との環境学習」「永山丘陵の自然を守る会、自然観察会」「子供たちの自然学習」「子供たちの体験学習、青梅環境市民会議の活動」

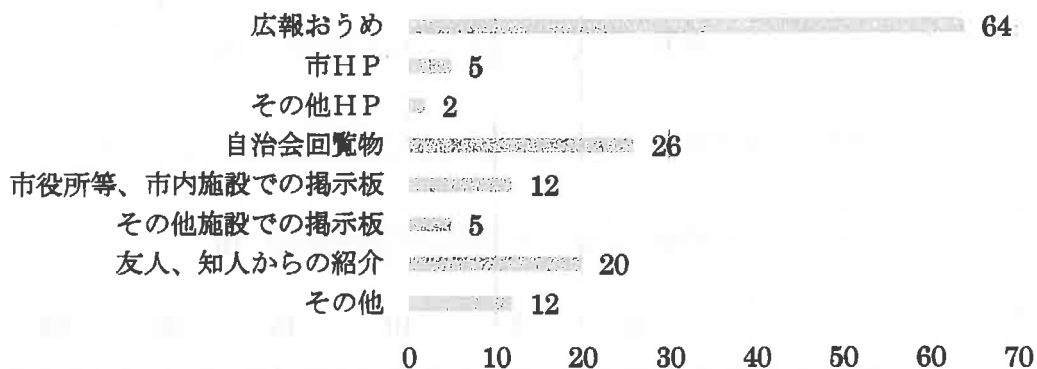
その他:「自然観察、主に植物観察」「自然観察、子供の自然研究」「自然観察」「永山丘陵の自然を守る会、観察会」「個体植物の確認と個体数と探索など現況調査とその記録」「野生動物の観察・観察会」「ウォーキング」「木材搬出他」「事業(イベントなど)」「森林浴」「仕事」「地元のおじいさんや市の方々と交流出来てとても楽しかった。」「体験」「ノルディックウォーキング青梅に入会しています。」「青梅の森になる前、詩の催しや、散策、自治会の催しで」

青梅の森に望むことは何ですか？（複数回答可）



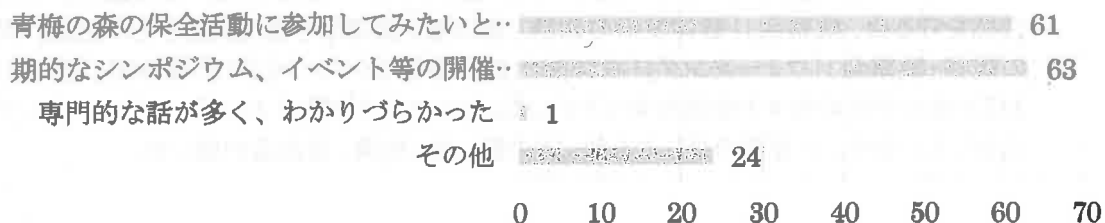
その他:「誰でも行ってみたいと思えるような場になることを望みます。」「自然教育活動」「環境教育の場」「自然学習の拠点」「環境教育の場としての活用」「自然の学校を作る(建物は太陽の子広場のホールで良い)」「環境キャリア等の教育」「山仕事の技術の伝承」「心と体の健康、癒す場としての活用には最適の森」「山と離れてしまっている市民へのアピールの場。市街地からよく見えますので!!」「植物観察会を開いてほしい」「ただそこに緑があればそれでよしとするようなものではない、質の高い取り組みを期待。」

本日のシンポジウムを知ったきっかけを教えてください。(複数回答可)

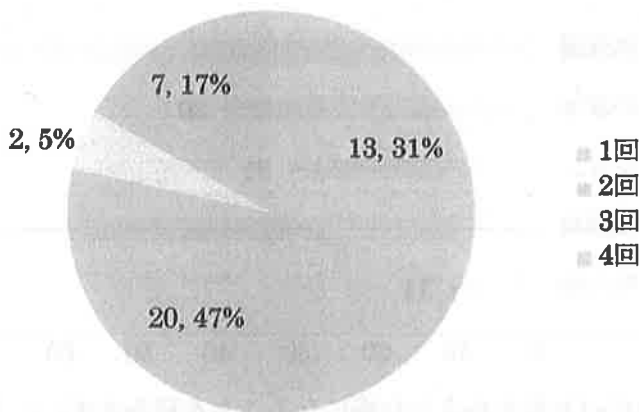


その他: チラシ 4、森エネの紹介 3、新聞で 2、交流会、永山で、両親からの紹介、野山北・六道山公園

本日のシンポジウムに参加してみたのご感想 (複数回答可)



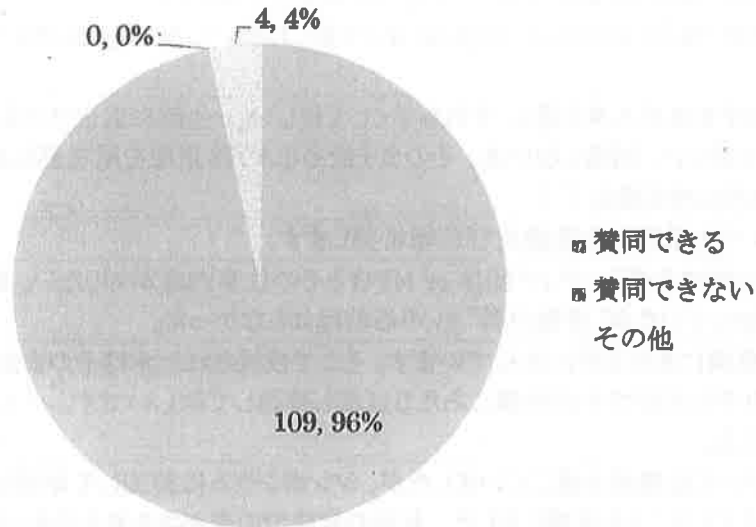
定期的なシンポジウム、イベント等の開催希望回数/年



その他: 「講師の皆さんは「森との係り」をわかりやすく説明して頂いた」「神奈川県西地区の活動にかかしたい」「近辺に住んでいたら参加したい」「バイオの活用・利用について具体的な話を深堀にしてほしい。」「青梅林業の今昔を詳しく知りたいと思った。」「久保田さんのように青梅の森と結びつけた話をたくさん聞きたいと思った。」「初めて参加しました。今後も注目していきたい」「青梅の森に行ってみようと思う」「バイオマスの話良い」「亀山先生のお話が楽しく、青梅のことを再発見したような気持ちになりました。」「色々な考え方、視点があり参考になった。」「経緯から現状までよくわかりました。」「初めての参加なので、大変勉強になった。」「亀山先生のお話が特に面白かったです。またお話しして欲しいです。」「まだ少し消極的」「木材利用に興味を持てた。もう少し詳しく知りたい。」「パネラーのパネルディスカッションまでの話が少し長かったのでは。」「面白かった。亀山さんの講演内容も素晴らしかった。森で婚活は良いね。パネリストの人選も見事です。」「大場氏: 森の重要性は分かるが、青梅の森とどう密接に関係があるのか、その点の説明が欲しかった。」「大場さん…詩を読み聞かせる必要あったかな? 「読んでください」で済んだのでは? 参加者に年寄りが多くションベンを我慢していたのだよ」「西多摩自然フォーラ

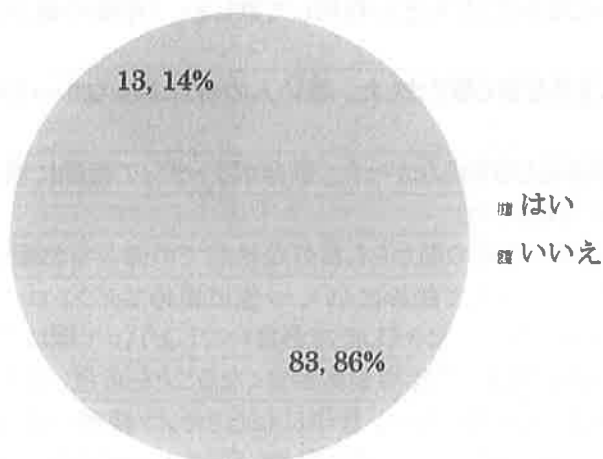
ム、久保田様の森の再生改善方法考え実績よくわかりました。もっと拡大して欲しい。」「晴れた日は富士山が真っ白に見えます大勢の人に散歩をお勧めします。」「この活動により今後の環境も対する学習の好奇心を得られた。」「講演の先生の話方がとてもよかった。」

本日のシンポジウムを受けて、青梅の森を保全していくために、適切な管理・運営を行っていくことについて、どのように思われますか？



その他：「バイオマスの活用することで継続可能」「メモを取れる様に机等を検討すべき。司会（進行）の人の紹介がない。青梅の森林は、どうあるべきかのテーマでシンポを考えてもよいのでは。」「青梅の森の保全活動の具体的な話が欲しかった。」「下植物の保護」「成樹した木の材木としての活用を」「主導される人々次第と考える」

今後、青梅の森に関する情報発信を検討しています。配信をご希望されますか？



青梅の森に関して、ご意見、ご要望等がございましたら、以下にご自由にお書き下さい。

青梅の森のバイオマスとしての実際の事例が出来てきたら、市のHPなどで広く公開してください。

大変興味深く参考になりました。

活動についての情報発信を多くしてほしい。バイオマスの活用はエネルギーとして重要。バイオマスについて行政(政治)が動いてほしい。政治を動かしてほしい。

今回のような企画・機会(自然再生・利活用)をより多くお願いしたいと、他地区住民ですが感じました。

・多くの人にPRする事が大事と思う、それも早くしてほしい。・生活に直面するもの(例えば水資源の問題加えて欲しい、消毒しない水、そのまま飲める水)落葉樹を尾根筋に植林して保水力を高め、水を飲料出来る様に！！

長淵の森についても散策路を整備及び広報希望します。

現在青梅の森に対するボランティア団体 or NPO とその仕事内容が知りたい。場所は我が家の近くなのでよく知っていたが”青梅の森”という名前は知らなかった。

青梅の森の北東側にあたる所に住んでいます。そこで伐採された木はそのまま放置されています。青梅の森の中も大切ですが外側にあたる区域も整備して欲しいです。バイオマスにつながる話興味ありました。

森のあり方について危機感を感じていましたが、シンポジウムに参加して身近なところから行動を起こして、考えていくことを実感しました。本当の意味での豊かさを考えるきっかけとなり、有意義な時間を過ごすことができありがとうございました。

一度行ってみたい。久保田先生の後援会があれば教えてください。もっとお聞きしたいと思います。

早く整備を進めてほしい。進捗状況を後方で毎月知らせてほしい。貴重な生き物が生息できる環境を整備して欲しい。情報発信、啓発活動の基地となる自然学習センターをつかってほしい。昔、私たちが住んでいた懐かしい民家のある青梅の森に成る様もう少し下刈りなど多めにした方が？

野山北六銅山公園のようになってくれたらうれしい。(入口がいっぱいある)木材資源利用は行政・自治体が積極的にモデルになるようどんどん利用して欲しい。「青梅の森」のような場所が地元にあって幸せです。

青梅に住む人たちの期待の大きさを強く感じました。若い人の参加が少なかったのは残念ですけど。

こんなに素晴らしい自然環境があるとは知らなかった。是非ボランティア活動に協力したい。

青梅の歴史その他とても勉強になりました。

青梅の森の存在は心強く思います、行政の面からも良好な状態での保存をお願いします。

本日の各種スライドですが小さく印刷されて読みにくい。一堂に集めてダウンロードできるようにしてほしい。スライド印刷も1頁4面ぐらいに大きくした方が良いでしょう(メモ欄は不要)

青梅を再発見しました。青梅の森に始まって青梅全体が良くなることを希望します。

キノコの生える林にすべきである。生えていない。数年にわたりキノコ観察の先生を行ってきた(おそらくD地区あたり)キノコは全く少ない。トンゴの聖地も作りたい(谷があり、池がある)強引に他の木も植えるべき、ミズナラ、クリ、クルミ、ブナ等。

ボランティア活動の大切さを感じています。活動の運営状況のPR等具体的に実施して戴きたい。

子供が小さい頃は身近な自然の中へ遊びに行くことも多かったが最近全く歩くこともなく”青梅の森”の存在すら知らなかった。今回はプレゼントのオリーブの苗木が欲しくて申し込んだが出席して色々なお話が聞けて青梅の森に関心を持ちました。

自然好き、歴史好きになり、青梅の森も大好きになりたい。

青梅の森のハイキングコース等があったらお知らせください。(時間、km)

ボランティア活動への個人としての参加方法を具体的に知りたい。下草刈り、伐材(間伐)、植林等、体験型で光が入る阿k類森に出来れば良いと思います。六銅山の様に里山民家を設けて色々なイベントが出来る様にしてほしい。

たくさんの方々のお話有難うございました。久保田さんの具体的なお話興味があります。テーマ別にシンポジウム化勉強会があってもよいのかもしれませんが。(高齢の方には時間がのびるのは津例かもしれません)

具体的な活動計画(公共的な活動内容とマイルストーン)を明示されるとよい。

青梅には大きな宝、小さな宝の原石が多くあるので、皆さんで磨いて行きましょう。

活動団体の横の連絡を取ってもらいたい。複数団体で日程が重なることが多いと思う。

とても参考になりました。色々なケースを想定し青梅の森を策定して下さい。

自然保護に力を入れて下さい。

青梅の森を未来に残せる財産となることを願いたい。

今後とも人間が手を入れていくことが必要(人と共存)。

大変勉強になった。今後是非協力していきたい。

ボランティア活動も必要と思うが、官民共同?市民参画?市の予算の節約と思ってしまうような、ボランティア依存では困る。(と書いていたらP. ディスでそんな事が発表されていた)自分たちの大事な森=宝という意識で参加出来たらいいですね。そう意識の変化出来たら、積極的になります。

青梅の森を使った小中学校の学習が、青梅の教育の中に位置づけられないでしょうか。そのために先生たちの研修からでも始められないでしょうか、森に学んで、森と暮らす街になったらいいですね。

森と親しんで生活していく中で、家具に使ったり、散歩に行ったりはしますが、森林資源をエネルギーとして使うところまでは今一つ実現できていません。今後是非活用して行きたいです。

青梅の森の道のことで以前の旧道根ヶ布1丁目と黒沢側に降りる道ですが、かなり荒れています。青梅七福神めぐりの聞修院へ行く道でありますので、荒れていますので是非整備を至急やっていただきたいと思います。ハイキング道路のため全く危なすぎるので至急お願いします。隣接根ヶ布2丁目の住人ですが、ダンプ道が唯一の道です。ハイキング方々青梅の森を通って東青梅や青梅等へ行ける道がぜひ欲しいと思います。よろしくお願いします。根ヶ布2丁目は多くの住人が住みながら、成木海道が唯一の道路です。青梅の森が保全することになったのですが、隣接地区の団地ですが青梅の森に入る道もあったのですがー今はあまり利用されておらず、荒れ果てています。せっかく隣接地区にありながら、青梅の森に入る道すら荒れていてはいることが出来ません。是非今までの道を整備して戴いて、団地の多くの人たちが利用できる道も整備して戴きたいと思います。ダンプがしょっちゅう通る道より、ゆったりと自然を味わいながらお散歩やハイキング方々東青梅や青梅に行く道に繋がればと思っております。よろしくお願いします。

間伐した材を暮らしの中で実際に使いたい。例えば、生ごみコンポストキットなんて販売したら欲しい。日曜大工で作る人と、組み立てコンポストの販売とこつ選択できて組み立て加工は地元の家具・木工職人に作ってもらえば、雇用にもつながる。生ごみコンポストを各世帯で使えば生ごみ処理費用の削減につながり、その分コンポストへの助成や青梅の森の予算に回せばいいと思う。青梅の森が青梅市民だけではなく、東京都民の森として再生できたら、今ここにある自然を体感できるイベントを企画するなど都民の憩いの場として観光収入につながるのではとイメージ、妄想は膨らむ。

「里山」とコピーがありますが、60年代までの里山とこれからの「里山」のあり方が変わりますね。薪の利用、チップ、ペレットを利用していただけますが、個人で利用していた旧里山から新里山は地域での利用になっていくのかなと思います。実りある時間でした。

運営方法の具体的な説明会を開いて欲しい。

多様な視点、取り組み方があることが実感できました。自分の出来ることから一歩ずつ取り組んでゆきたいと思います。

1. 駐車場の整備。2森を経済的に(生産的)プラスにして、経費の補てんにする。
自然のことが素晴らしいと思いました。また聞きに来たいと思います。
素晴らしい里山です。多くの人達の憩いの場になればと思います。市民の関心をより大きくしてゆく工夫。
樹木の札を増やして欲しい
青梅の教育委員会と協同して小中高校生に参加カリキュラムを作って欲しい。
防犯上見通しを確保しなければならないところもあることをお忘れなく。
バイオマスの考え方と地球温暖化の関係はどうなんでしょう、相反しませんか。
私は御岳に近いところに住んでいます。現在花粉対策等で山の木を切っておりますが、都と共同で観光のための雑木(もみじ等の)を植えたらよいと思う。
亀山先生のお話は大変面白く楽しく過ごさせていただきました。うっかりして今日の申し込みを忘れて当日の参加をさせていただきましたそのため資料も何も頂けませんでしたとても残念な思いをいたしました。これからはしっかりしなくてははいけないと思います。
とても分かりやすい内容でした。来てよかったです。これからは公園等のイベントに積極的に参加していきます。青梅の森のこの先の事もこの様な集まる場所を持って活動状況などお知らせいただければと思います。
がんばってください。
実行には色々な困難はあると思います。力を合わせて次世代へ継がせる森にしたいと思います 育成ー活用へ(木材)
1. 山桜と桧が育つ環境がほしい。 2. あまり杉の木を伐採して欲しくない 3. 自然の森の中に少し伐採してあくまで自然のままが良い
1. 宅地開発にされなくてよかった。 2. 森をきれいにする事によって動物(サル、シカ、イノシシ、クマ)から被害を守ることが出来る
NPO 青梅林業研究グループとのリンクは？また必要ではないだろうか。◎資料に連番のページまたは講師名を記入(探すのに苦労する)
里山保全是大事、青梅市がやる事ですが、奥多摩町や埼玉県側との関係が今後もっと大事に思う。
東村山市等の様にシイタケのホダ木を使った講習会を行ってほしい
「青梅の森」に向かう都会の方々が降りる駅は東青梅 or 青梅、その駅前に「森」をいめーじされる「何か」を創ってみたら
市内に住む人間は情報がともかく入りますが、いわば観光客の大勢の人に配慮して情報提示が必要と思います。
私は現在野山北・六道公園で登録ボランティアとして雑木林の管理をしています そうした経験が活かされるのでは、また距離的にも近いので活動しやすいかと思えます

平成25年度以降の予定
速やかに森の会(仮称)を設置し、協働による保全等を進めていきます。
青梅の森でのボランティア活動には、自然の保護・継続的な活用を行っていく必要があります。また、安全面や各作業技術の共有・ステップアップを図るために、自由参加型ではなく登録型のボランティア制度を取り入れます。登録型とすることで、個人へのフォローや、安全講習、青梅の森でボランティア活動を行う心構えについて研修会やボランティア登録会を通し、体験できるようにするためボランティア登録制度を確立していきます。

※資料を別途添付するなり、わかりやすく説明してください。



みんなで考えよう

みんなで学ぼう

シンポジウム



青梅の森にそまろう

～青梅は東京の「杣」だった～



みんなで話し合おう

報告書



目次

シンポジウム「青梅の森にそまろう」開催概要

第1章 挨拶.....	1
1.1 開会(主催者挨拶/青梅市都市整備部長 小島晴夫).....	1
1.2 挨拶(青梅市長 竹内俊夫).....	2
第2章 青梅の森事業紹介.....	3
2.1 青梅の森紹介(青梅市都市整備部公園緑地課緑地保全係長 伊藤慎二郎).....	3
第3章 基調講演「青梅の森林と人の繋がり」.....	5
第4章 パネルディスカッション「青梅の森の未来を考えよう」.....	6
4.1 パネリスト自己紹介.....	6
4.2 パネルディスカッション.....	7
第5章 シンポジウムアンケート結果.....	11
5.1 参加者情報.....	11
5.2 回答.....	12
資料1 展示機器・物品.....	21
資料2 配布アンケート用紙.....	22

シンポジウム「青梅の森にそまろう」開催概要

このシンポジウムは、「青梅の森」の豊かな自然環境を未来に引き継ぐための一歩として、たくさんの方々に青梅の森を知ってもらうため、事業紹介を始め、様々なプログラムで「森」との関わり方をご提案したものです。

キーワード「杣（そま）」

かつて青梅は、武蔵の国を支える「杣（そま）」でした。杣とは、古代から中世の日本で国などが持っていた山林のこと。さらに、木材やそこに働く人々も含めた、すべての山林資源をあらわします。青梅は、近世以降も里山として、自然の恵みを活かし、慈しみながら、人と自然がともに歩んできた歴史を持っています。

青梅の過去を表わす『杣』に、未来の姿を共有し伝え『染まっていく』。
青梅の森が積み重ねてきた時間（過去）を感じ、みんなの力を合わせてひろげていく（現在）。
このみんなで築いた財産を将来（未来）へ引き継いでいく事をコンセプトに開催しました。

青梅産材ロゴマーク

テーマである「杣」に、青梅の豊かな自然、人材などすべての可能性をたくし、青梅産材のロゴマークを作成しました。

「杣」の漢字をもとに、木へんと山を図形化。未来へとつなげていきたい青梅市内の大切なみどりを表現しています。また、そまをアルファベットにしたS・O・M・Aには、かつての「里山」である「青梅の森」を「愛」でつなぐ、という意味と願いを込めています。

このロゴマークは、青梅の森や市内公園などの間伐材、剪定木などから作られるオリジナルグッズ、花壇などに使用されています。

- ▲大きな山は青梅を代表する山、御岳山
- ▲二つの小さな山は、長淵丘陵と霞丘陵
- ▲木は霞丘陵の西の端にある青梅の森



Satoyama 里山

Ome 青梅

Mori 森

Ai ♡♡♡ 愛 過去・現在・未来

開催概要

開催日：平成 24 年 11 月 23 日（金曜日・祝日）午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分

会場：青梅市役所 2 階（204 会議室）

定員：150 名（参加費無料）

天候：曇り時々雨

参加者：167 名（児童、招待者、関係者を除く）

配布物：資料一式、竹炭（青梅産）、緑化木（オリーブ、ブルーベリー他、希望者）

その他：緑の募金活動

第1章 挨拶

1.1 開会（主催者挨拶／青梅市都市整備部長 小島晴夫）

主催者である青梅市都市整備部より、部長の小島晴夫が挨拶を行い開会となりました。



（写真：青梅市都市整備部長 小島晴夫）

本日のシンポジウムは約 92ha の特別緑地保全地区「青梅の森」を広く皆様に知って頂き、多くの方々の英知とお力を持って、豊かな自然を守り・育て・親しんで頂くきっかけとするために開催するものである。

青梅の森事業計画の基本理念は、貴重な野生生物の生息の場として保全し、市民と協働して維持管理を行い、未来に引き継ぐこととしている。また、日本人には古来より培ってきた自然の恵みを享受する精神と自然に逆らわずに利用している知恵がある。来年度から本格的に青梅の森での市民協働事業を進めていくが、そのため管理、運営の中心を担う運営協議会の発足に向け各種団体の代表と準備を進めている。本日のシンポジウムで青梅の森の保全について、さまざまな視点、立場から御意見、御提言をいただくと共に今後ご参加の皆様に青梅の森を共に支えるパートナーとなっただけの機会となれば幸いである。

1.2 挨拶（青梅市長 竹内俊夫）

「青梅の森」一帯は、以前は「永山北部丘陵」と呼ばれ、住宅開発の計画地となっていました。しかし、社会情勢の変化、環境への意識の高まりを受け、この一帯の緑地を保全していくこととして、市は政策を転換しました。その決断をした市長である竹内俊夫より、挨拶を行いました。



（写真：青梅市長 竹内俊夫）

本日のシンポジウムには、大勢の皆様に参加していただき、青梅の森に対する関心がいかに大きなものであるかを実感している。

青梅の森については、宅地開発から、緑地の保全へと計画の変更をした経緯がある。それを受け、従前の永山北部丘陵一帯を市が取得し、そこを里山にして整備していこうという計画となった。青梅の森の整備、管理は、現在、我々の生活と共生していくことを考えている時期にあたり、今回の「青梅の森にそまろう」というシンポジウムを開催するに至っている。

「そまろう」の「そま(杣)」は広辞苑によると、樹木を植え付けて材木をとる山「杣山」。杣山から刈り取った木材を、あるいは杣木を刈り取る事を業とする人とあり、林業など山との付き合いを表している。

青梅では藤橋に杣保葛神社があり、旧霞村には杣保会、御岳には御岳杣唄などがあり、江戸時代から山との付き合いが濃い地域である。そこから生活に必要な薪や葉を燃料や肥料にしたり、季節によって山の恵みを得たり、我々にとって貴重な生活資源を提供してくれる場所が「里山」である。これまで、そういった山と人々は長い付き合いをしてきたが、近年、生活様式も変わり、山との付き合いが減ってきているが、青梅の森の地域を昔の里山の状態、本来の自然の姿の中で、我々が自然と親しめるような場を提供してもらえるような環境を持ち続けるためにも、青梅の森との新たな付き合いをしていきたい。それが「管理する」ということになってしまうが、固い意味の管理ではなく、幅広い意味での「管理」をして青梅の森と付き合いしていこうと考えている。

本日講演をしていただく亀山先生は青梅市の総合長期計画にも参加していただいております、専門分野だけでなく、青梅にも大変詳しい方であり、今回はシンポジウムのコーディネーターもしていただけたことで大変楽しみにしている。本日参加して頂いた方々には、これから先の青梅の森に関することに参加していただければありがたいと思っている。

第2章 青梅の森事業紹介

2.1 青梅の森紹介（青梅市都市整備部公園緑地課緑地保全係長 伊藤慎二郎）

管理を担当している青梅市都市整備部公園緑地課より、緑地保全係長の伊藤慎二郎が、プログラムを進めるにあたって知っておきたい「青梅の森」についての現在までの取組状況、今後の予定などを紹介しました。



（写真：青梅市都市整備部公園緑地課緑地保全係長 伊藤慎二郎）

「青梅市概要」

青梅市は、東京都の北西部、都心から西に約40～60km圏、関東山地と武蔵野台地にまたがって位置しており、秩父多摩甲斐国立公園の玄関口ともなっている。市の中央を東西に多摩川が流れ、川に沿うように走る青梅街道は御岳参りなど多くの人に利用され、宿場町として発達してきた土地である。また、古くから織物業が盛んで、青梅夜具地として全国に知られている。

「青梅の森の概要」

青梅市のほぼ中央にあり、91.7haの面積を有する都内で最大規模の特別緑地保全地区になる。小曾木街道と成木街道に挟まれた加治丘陵地の一番西端に位置し、南側には都市計画公園である広さ約47haの永山公園が隣接している。地形は地区内の西側に主稜線が南北に走り、標高が一番高いところで295m、低いところが185mとなっている。

地区内の植生はクリ、コナラを中心とする二次林が大半をしめる。また、都の保護上、重要な野生生物に選定されている動植物が確認されている。

「青梅の森の経過」

民間事業者により住宅開発が計画されていたが、開発事業者の破綻、社会状況の変化を踏まえる中で再検討し、市が土地を取得したうえで自然環境を保全していく事に大きく計画を変更した。平成22年1月22日付で特別緑地保全地区として、都市計画決定された。また、当地区は従前「永山北部丘陵」と呼ばれていたが、市民が親しみやすい名称となるよう、市民公募により「青梅の森」に決定した。

また、都市計画決定にあわせて、当地区の保全を図るため、平成 19 年度に「保全計画(骨子)」を策定し、平成 21 年 4 月に「保全計画」を策定した。さらに、この保全計画にもとづき、青梅の森の自然環境を保全・整備・運営していくため、具体的な取組みをまとめた「事業計画」を平成 22 年 7 月に策定した。

「青梅の森の事業計画」

①基本方針

●基本理念

青梅市は、この地を貴重な野生生物の生息の場として保全し、市民と協働して維持管理を行い未来に引き継ぐ。そして、この地を市民が自然とふれあえる場や里山の仕組みを体験・学習する場、散策やハイキング等の気軽に利用できるレクリエーションの場として活用する。

●方針

基本理念にもとづき、「保全」、「整備」、「運営」3つの基本方針を定めている。

- ・保全／野生生物が今後も生息し人と共存できる環境を守ります
- ・整備／市民が利用しやすいように必要な施設を整備します
- ・運営／市民・企業・行政が協働して管理・運営する体制をつくります

②ゾーニング

保全計画では青梅の森を 5つのゾーンに分け、事業計画では更に 20の小区分にわけている。このゾーニングの小区分は、管理をしていく上で、㊦住宅地等の隣接状況、㊧樹種、㊨林齢、㊩動植物の確認状況、㊪土地の傾斜などの視点から考えられている。

③運営組織の在り方

これから青梅の森は、市民や企業、他の自治体等と青梅市が、協働で保全管理を実施していくことが必要であり、管理運営のための体制やルール等について協議する運営協議会を設けて、検討を行う予定となっている。また、その検討の中で、注目される動植物の取り扱いや林業など専門的な知識が必要な場合は、自然への配慮事項などを確認するため、専門家へ相談させていただき、助言いただいたものを協議会へ反映させていく。

この協議会の内容をふまえて、市民が参画していきやすいように森の会を立ち上げ、市民ボランティア、NPO、協賛企業、他自治体との連携などを行っていきたいと考えている。



(写真:会場風景)

第3章 基調講演「青梅の森林と人の繋がり」

東京農工大学 名誉教授 亀山 章

青梅は、武州(武蔵の国)の柚保(林業地帯)として使われていた土地である。

私の青梅での思い出としては、夜具地がある。全国の8割くらいの夜具地を青梅で作っていた。また、青梅の夜具地は江戸時代から作られていた歴史がある。それは、この時代から青梅が大工業都市であったということであり、つまり富と文化の集積があった街であったと言える。さらに、林業の資源と、成木の石灰といった、そのほかの資源、富も豊富であった。

(写真:東京農工大学名誉教授 亀山章先生)



「青梅の自然と歴史」について。

全ての地域は人と自然の歴史から成っている。地域の自然を知るには、歴史を知る事が一番である。武蔵野台地のうちで一番標高が高いのが青梅市。この中でも、武蔵野段丘と青梅市のある立川段丘があるが、このふたつの段丘は全く歴史の蓄積が違う。

立川段丘は縄文時代・古墳時代からの遺物が残る歴史の宝庫である。また、青梅市は文化財が他と比べて圧倒的に多い。寺社や蔵をはじめ、国宝の鎧もあり、植物もケヤキやスギといった天然記念物がたくさんある。これらは、青梅市が昔から人が多く住んでおり、富の集積があった事を意味する。江戸時代、建築用材だけでなく薪や炭も供給する青梅林業があった。多摩川の砂利と青梅の石灰も主たる産業であった。



「青梅の森林と林業」について。

青梅林業を支えているのは、秩父古生層という地質が大事な要因となっている。昔は、原生林であった部分をそのまま伐採して使っていた。また、青梅には昔から多くのお寺や神社があったので、建築用の木が必要であったと言われる。1,378年に浅草観音寺が焼けた際に青梅一帯に木材を求められた。この時、歴史の書物に「武州柚保」という言葉が現れている。

また、1,666年に鮎漁の為に、筏流しの妨害を行ったとの記述があり、このころから植林、林業が始まったと考えられる。そのあと、江戸の大火が度々あり、江戸周辺にも四谷丸太の産地があったが、それだけでは足りず、青梅にも木材を求められた。この木材の流れを「江戸出し」と言っていた。明治以降でも鉄道(青梅線)と筏の両方で木材の運搬を行い、江戸への需要に対応していた。

このように歴史上、江戸を支えてきたのは青梅であり、自然と歴史が一体となって発展してきた素晴らしい場所であると思う。この歴史の上に立って、青梅の森の管理を行っていくのが良いのではないかと思う。

第4章 パネルディスカッション「青梅の森の未来を考えよう」

4.1 パネリスト自己紹介

(1) 青梅青年会議所 輪千 智一

青年会議所は、明るい豊かな社会を作る為に活動している。青梅の森は広大な面積になるが、初めて歩いた時に、自然の豊かさと同時に放置された森林、マツ枯れなど、厳しい道のりも感じた。薪としての利用などでも、青梅の森にかかわっていききたい。また、青年会議所として何が出来るかを考えていききたいと思う。



(2) 西多摩自然フォーラム 代表 久保田 繁男



私は、青梅の森の保全計画・事業計画の策定に委員として関わった。青梅の森の自然を見ながら、将来を考えていく必要がある。西多摩自然フォーラムは、青梅の森では生物の調査・樹林部の保安全管理の活動・炭焼きの研修のお手伝いをしている。青梅の森での伐採調査では、木を切って林床を明るくすることで植生が増える事が判っている。まちの人が生活の中で森の資源を利用する事が、青梅の森の管理では重要である。

(3) 株式会社自然教育研究センター 取締役 古瀬 浩史

私は、自然に対する教育的なコミュニケーションであるインタープリテーションや環境教育を行っている。できるだけたくさんの人たちと青梅の森がどこを目指しているのかを共有していく必要があると思う。また、青梅の森は、街と山の境にあるので、都会型の子供たちが自然を学んでいく素敵な場所になっていくのではないかなと思う。



(4) NPO 法人 NPO birth 事務局長 佐藤 留美



人と自然の共存できる仕組みができないかと考え、NPO を立ち上げた。武蔵村山で市民協働の里山再生を行っている。森づくりを行う時は、意見を集め、学びあう時間を作って実践に移るやり方が良い。ぜひ青梅では、持続可能な次の世代まで続くまちづくり、地域づくりを展開して頂けたらと思う。

(5) 株式会社森のいいこと 取締役 大場 龍夫

自然のエネルギーが好きで、木材で発電や熱の利用をする仕事を立ち上げた。西多摩地域でも、いくつか木質バイオマスボイラーが入っている。木は人の歴史・生活の中で色々な物に活かされている。青梅の森でも、自然を保護する事・自然を生かして繋がりをつけるという生活をよく検討し、行って頂きたい。



4.2 パネルディスカッション



亀山コーディネーター

沢山のご意見をいただきありがとうございました。整理中ですが、中には「市長は経費をかけたくないの、皆にやってくれと言っているんじゃないか」との意見が来ているが、むしろ市民で行うと時間がかかる部分も多くあるが、市長は我慢強く、皆さんが良い森を作ってくれるのを見守ってくれていると思っている。

また、市民の理解度が大切であるのご意見を多くいただいている。青梅の森が宝の山になるかどうかは周知(PR)が大切だとの意見もいただいている。

市民の理解度が大切であるのご意見を多くいただいているので、まずは市民の理解度を高めるにはどうすれば良いか話してもらおう。



久保田:私も一番困っている。スギ、ヒノキの人工林は、所有者が木材を生産するための山で目的がはっきりしており、管理すべき内容ややるべきことがはっきりしている。一方、広葉樹林はいろんな樹種があり、昔は炭にする等の目的が明確になっていたが、現在はどんな山にするかの目標がバラバラ。これが正しいということがない。目標の合意形成が難しい。いろいろな環境の森がモザイク状にパックされているのが里山の良いところなので、意見が違えば場所を変えて小規模にそれぞれ作ればよい、無理やり合意形成をしないでよいのではないかと思っている。



佐藤:森へのかかわり方は、散策であったり、虫取りであったり、下草狩りであったりと多種多様である。人の意見はバラバラになってしまうので、森に聞くことが大事。森は答えてくれるわけではないが、だんだん調べてゆくと、この森は何をしなければいけないか、何を欲しているかが分かってくる。ただ、自然だけを見ていては駄目で、周りに住んでいる方々の想いや、森の置かれた社会条件(例えば学校が

近い、駅が近いか遠いかなど)など色々な角度から森を見てゆくと、その森の姿が浮かび上がってくる。そこで先程、久保田さんが話したエリア分け等を行うことによって、どんな方でも楽しめる森が出来てゆくと、自分の関心に応じて色々な人たちが森に入っていく。そんな風に誰にでも受け入れられて、森も喜ぶ森づくりができるのかなと思う。



輪千:以前、青梅の森を知っているか、自分と同年代の友人たち10人に聞いてみたところ、知っていたのは、たったの3人。市をはじめ、今日来ていただいている方々の口コミなども貴重なPRになる。まずは話してもらい、知ってもらおう。広報が大切である。

亀山:では、次に視点を変えてバイオマスのお話を聞きたい。

大場:森とのつながり方として、森が生活の中に位置付けられ(例えば、家に木が使われていたり、石油燃料ではなくそこに有る身近なものを使わせて貰うなど)恵みを感じられる森とのつながりを付け直すことがよいと思う。

ご意見の中にはペレットでのスターリングエンジンを使った発電のご提案をいただいているが、青梅の軍畑にもペレットを作っている所がある(一般にはあまり知られていないが業界では有名)し、多摩地区には木質バイオマスを作れる余地があるので、夢が実現できるのではないかと思う。



また、『何故バイオマスボイラーを使っているのか』という質問が来ており、経済性の面で木を直接燃やして湯を沸かしたり、暖を取るのには効率が良いから使っている。もう一つ、有効な収集方法のアイデアを教えてほしいとの質問がある。最近では少人数でも運搬ができる滑り台のようなシューターや簡単なワイヤーで引っ張り上げたりするものがあるので、青梅の森で研修をしながら(既に何回かやっているが)練習して実際に集められるようにするのもよいと思う。

亀山:次に木材の収集について伺いたい。

久保田:木材の収集方法についての質問がある。大場さんの話のような技術的な問題もある一方、個人所有の森林ならば所有者の同意のみで森林資源を活用できるが、青梅の森は所有者が青梅市のため、資源を販売したりすると市の財産を特定の個人や団体に利益供与することになったりするため、利活用が難しい面があった。今回の青梅の森事業計画では、手入れをした資源の販売等で出た利益を青梅の森の管理費用に還元する仕組みの検討が盛り込まれている。青梅の森で色々な人が活動して、そこから生み出されたものを市民が利用して、市民の生活と森が結び付くと言う仕組みができれば、色々な自治体が進めている森林整備から一歩進んだ取り組みがこの青梅にできると考えている。

次に、『ボランティアが青梅の森とどう活動したらよいか』と言った質問がある。これについては、事業計画の中の運営組織プランというところで「森の会の設置」があり、これが青梅の森の運営事務局的な役割を果たし、ボランティアの方々の活動は森の会が組織し、連携をして動いていくことにしている。森の会にボランティアの登録制度等を実施することで検討をしてきており、運営準備会が動き出している中で、その中で整理されて来ると考える。

同じく「青梅林業研究グループ」については青梅の森の保全計画・事業計画策定の委員として参画、また運営協議会の委員としても参画いただき連携させていただいている。

話は変わるが『ムササビヤリスの巣箱設置についてどうすれば良いか』という質問が来ているが、これは公園緑地課が管理しており、現状の自然を変えるような場合は公園緑地課の許可を取ってやっていただくのが必要と考える。話はそれだが、今年活動場所の近くの太い檜が伐採されていたり、ハイキングコースの脇の檜も「薪がらし」と言う手法で荒らされていて、誰がやったかは分からない状

況があった。こういう事のないように、青梅の森で活動する人達がどういう手続きの上で活動するのか整理してゆく必要があるであろう。

もう一点、『何故坊主山にしてしまうのか』とのご質問がある。生物多様性の観点から森林を考えたとき、国の研究機関の調査では、伐採直後の森が生物の種数が一番多く(樹種に関係なく)、樹齢の変化とともに生物の種も変化することが分かっている。昔の里山は樹齢の違う林があちこちに入り混じっており、里山の生物多様性の基盤となっていた。ただし、里山ができる前の森林性生物は絶滅するものも出ている。そこで、青梅の森の保全計画では、里山林の復活、多様な植生の回復、自然の遷移に委ねるの3本柱で考えている。

佐藤:久保田さんの話で出た「資源活用」は大きな問題で、公園の資源を循環させてまた公園関係の費用等に戻るような仕組みが「青梅の森」で出来て行くことを期待している。

参考:、数年前の試算では、野山北・六道山公園全体で、瑞穂町の住民が1年間使えるだけのバイオマス資源が出るほどであった。一方、環境教育的な資源活用に取り組んでおり、里山の資源を暮らしに生かして行き、それにより森への関心も高めることで、さらに資源活用を増やして行くような世論形成の活動も必要だと考えている。



古瀬:『子供たちの環境教育をもっとやったら』或いは『やり方に問題がある』との意見をもらっている。

最初に青梅の森の認知度がまだまだであるとの話が出ていたが、認知度を上げるためには広報のチャンネルを増やすことが肝心である。今日の催しのパンフを見て「俺はいいや」と思った人でも、森で秋の美味しいものを食べようとか、小さなお子様がいる人には森で遊ぶようなイベントを催す等の色々な人が関心を持てる入口を増やすことが大事だと考える。

亀山:沢山の期待が寄せられているので紹介する。

『基本理念に「自然を通して人間を育てる」を加えてほしい』とのご意見を頂いている。とても大切なことだと思うので、これからそれを考える必要がある。

『自然と人間との共生を未来に伝えられるような森づくりを目指してほしい』

『森だけでなく、街中での自然環境整備にも力を入れてほしい』

『都心から近距離のところ緑豊かなホッとスペースとして青梅の森が活かされたらよい、宿泊施設を設け収益事業にもつなげる』

『山の手入れをしっかり。道の整備も必要』

『1年契約の地主制度を作って「おらが山」にすれば、もっとたくさんの人が集まるのでは』との意見があり、なかなかおもしろいアイデアだと思う。

『急な丘陵を切り開いて作られた団地も高齢化、人口減少しているので、元の森に戻せないか』

『隣接市町村との関係をどうするか』の質問あるが、青梅の森で良いものが出来れば、近隣市町村にも広がって行くと思う』

なお、原発事故や放射能の問題についても質問が寄せられているが、こちらは青梅の森とは別に、市当局で青梅市全域について対応しているのではないかと思います。

佐藤:92haもの広大な地域の管理は相当大変、具体的な進め方のアイデアについての質問が来ているがその通りで、これだけ広い地域では専門家を含めて沢山の団体が活動されると思うので、それをつなぐコーディネーターが大切だと考えている。

『NPO「Birth」が抱えている問題を本音で』とのご質問がある。Birthでは若い女性スタッフが活躍しているが、この人たちの出会いの場がないので、青梅の森で「森婚活」などが実施されれば若い世代も集まってくると思っていて、そこに若いスタッフも投入出来たらよいと思っている。

輪千:今日の皆さんの話を聞いて、色々なことができることが想像できた。また、すべてを行うことは難しいことも理解できた。その中でどれだけのことをやれるかは、世代を引き継ぐことが大事だと感じた。今後このような活動や青梅の森でのイベントにはもっともっと若い人の参画が必要。青年会議所も2年に1回くらい婚活事業を実施しているので、森婚活も良いアイデアと思う。色々な取り組みをし、チャレンジして壁を越えて行かなくてはならないのだろうと感じている。

亀山:今日はお集まりの方々の熱い心を感じ共有できたと思う。青梅の森はこれから始めるところであり、皆さんが少しずつの力を持ち寄って、もっと良い青梅の森に育てていければと思っている。今日は大勢の皆様に参加いただきありがとうございました。



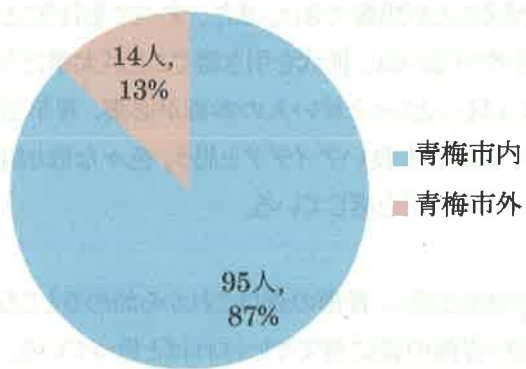
(写真:パネルディスカッション風景)

第5章 シンポジウムアンケート結果

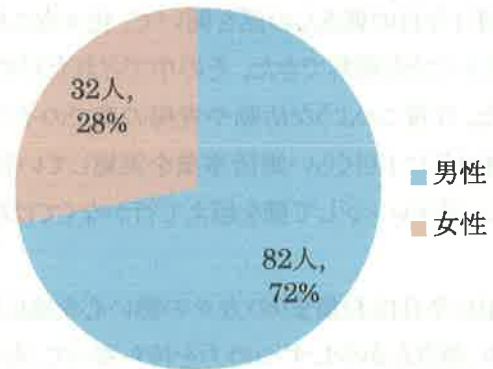
シンポジウム開催後に収集したアンケートの結果(120名分/回収率72%)をここにまとめる。
なお、グラフには有効回答のみを反映した。

5.1 参加者情報

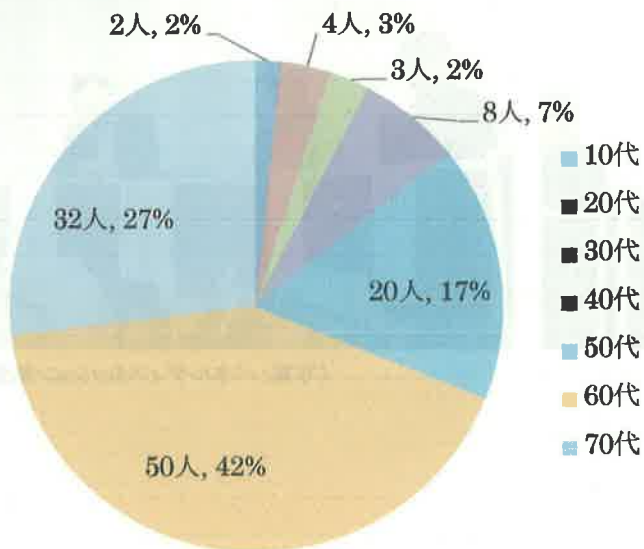
○参加者居住地



○男女比

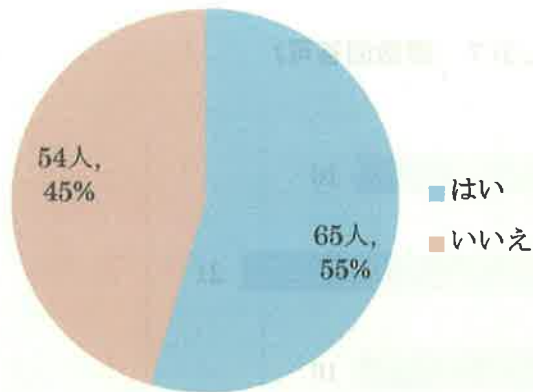


○年齢層



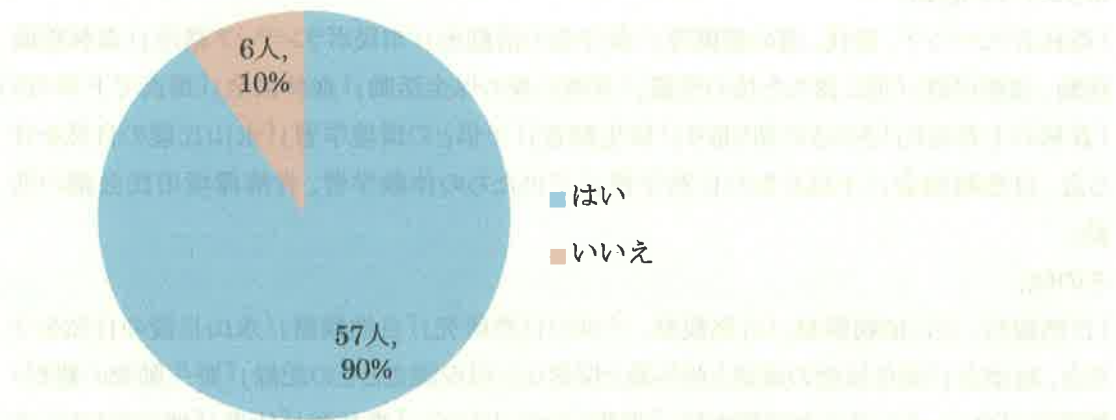
5.2 回答

(1) 青梅の森の取り組みをご存知でしたか？

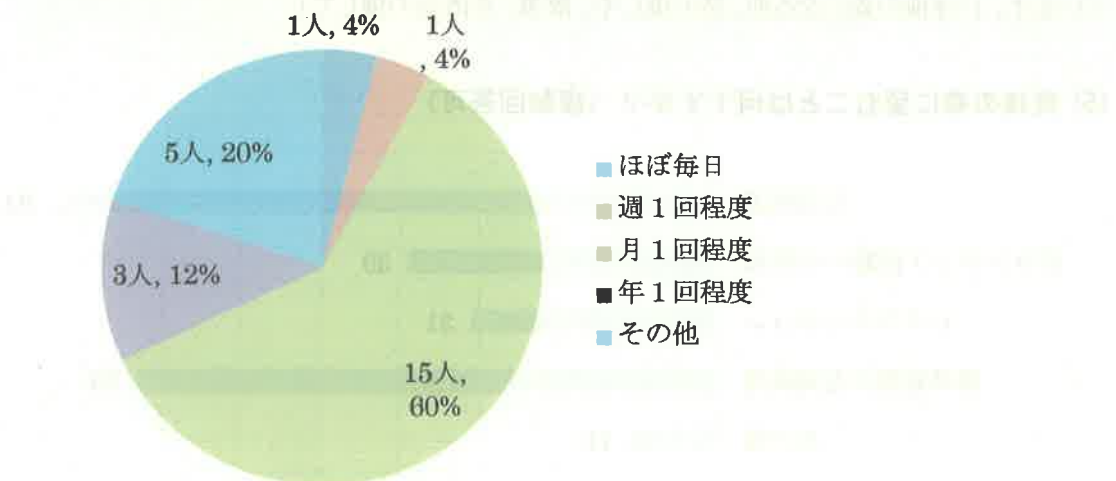


(2) 問1ではいと答えた方に質問です。

これまで、青梅の森に行ったことはありますか？



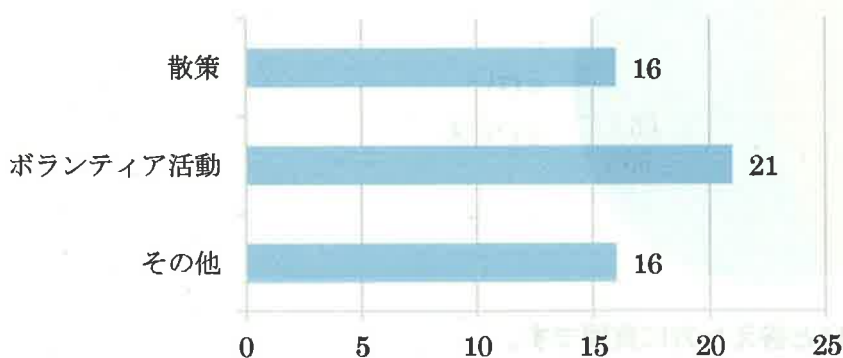
(3) 直近1年間で、どのくらい青梅の森に行きましたか？



その他:「5回程度」(3名)、「最近は行ってない」(2名)、「なし」(2名)、「週2回必ず行きま

す」、「年4～5回」、「3か月に1回位」、「年3回」、「20回」、「2～3回」、「1回」、「子供のころは遊びに行っていました。」

(4) 青梅の森に行った目的は何でしたか？（複数回答可）



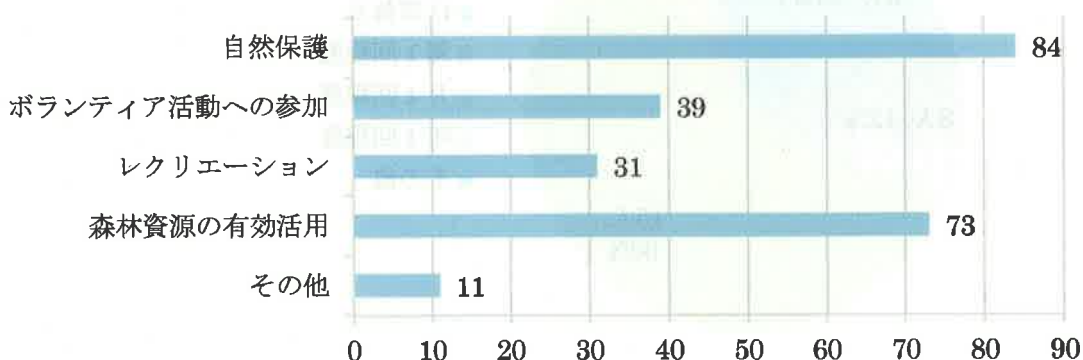
ボランティア活動:

「森林ボランティア、除伐、道の整備等」「森守会の活動地」「市民ボランティア講座」「森林整備活動、技術研修」「道に落ちた枝の整備」「青梅の森の保全活動」「森林保全」「黒沢で下草刈り」「森林の下草刈り」「さかきの切り取り」「植生調査」「子供との環境学習」「永山丘陵の自然を守る会、自然観察会」「子供たちの自然学習」「子供たちの体験学習、青梅環境市民会議の活動」

その他:

「自然観察、主に植物観察」「自然観察、子供の自然研究」「自然観察」「永山丘陵の自然を守る会、観察会」「個体植物の確認と個体数と探索など現況調査とその記録」「野生動物の観察・観察会」「ウォーキング」「木材搬出他」「事業(イベントなど)」「森林浴」「仕事」「地元のおじいさんや市の方々と交流出来てとても楽しかった。」「体験」「ノルディックウォーキング青梅に入会しています。」「青梅の森になる前、詩の催しや、散策、自治会の催しで」

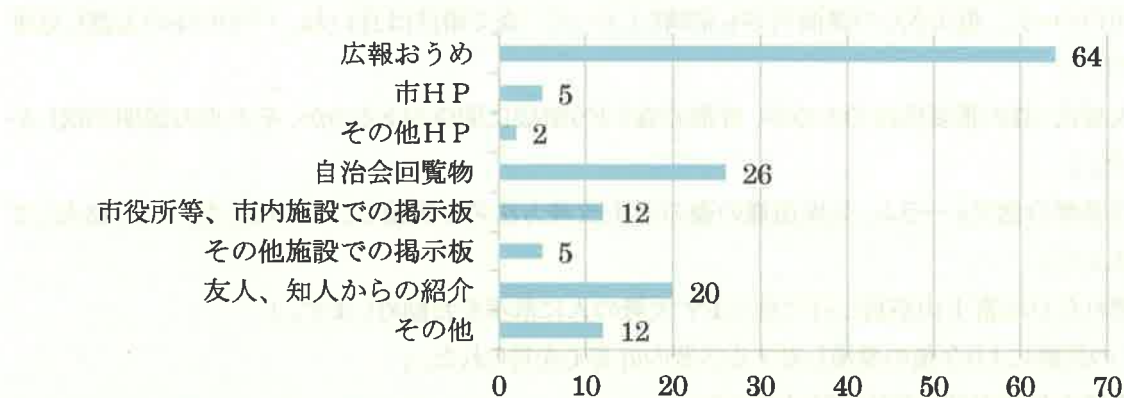
(5) 青梅の森に望むことは何ですか？（複数回答可）



その他:

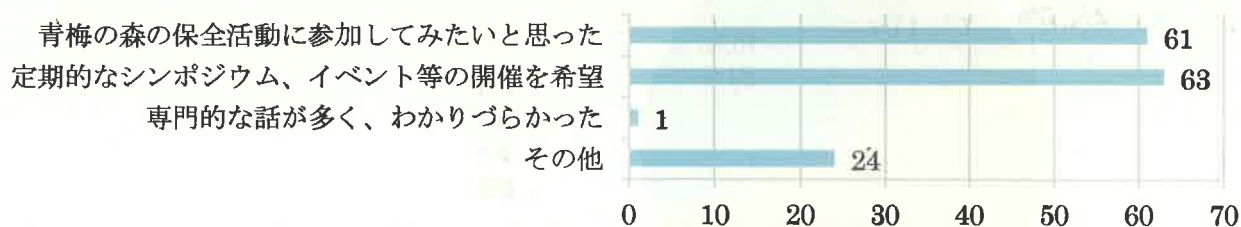
- 「誰でも行ってみたいと思えるような場になることを望みます。」
- 「自然教育活動」「環境教育の場」「自然学習の拠点」「環境教育の場としての活用」
- 「自然の学校を作る(建物は太陽の子広場のホールが良い)」
- 「環境キャリア等の教育」「山仕事の技術の伝承」
- 「心と体の健康、癒す場としての活用には最適の森」
- 「山と離れてしまっている市民へのアピールの場。市街地からよく見えますので！！」
- 「植物観察会を開いてほしい」
- 「ただそこに緑があればそれでよしとするようなものではない、質の高い取り組みを期待。」

(6) 本日のシンポジウムを知ったきっかけを教えてください。(複数回答可)



その他: チラシ 4、関係企業からの紹介 3、新聞で 2、交流会、永山で、両親からの紹介、野山北・六道山公園

(7) 本日のシンポジウムに参加してみたいのご感想(複数回答可)

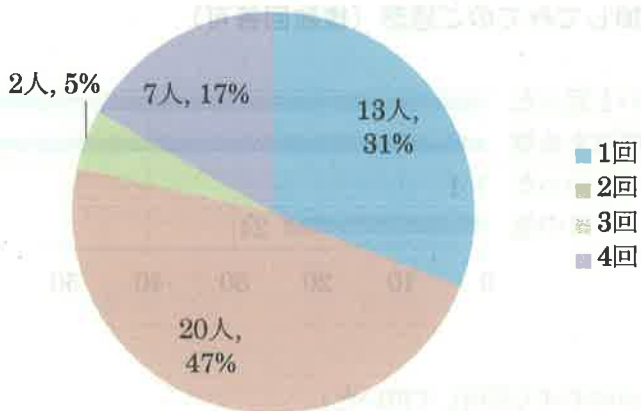


その他:

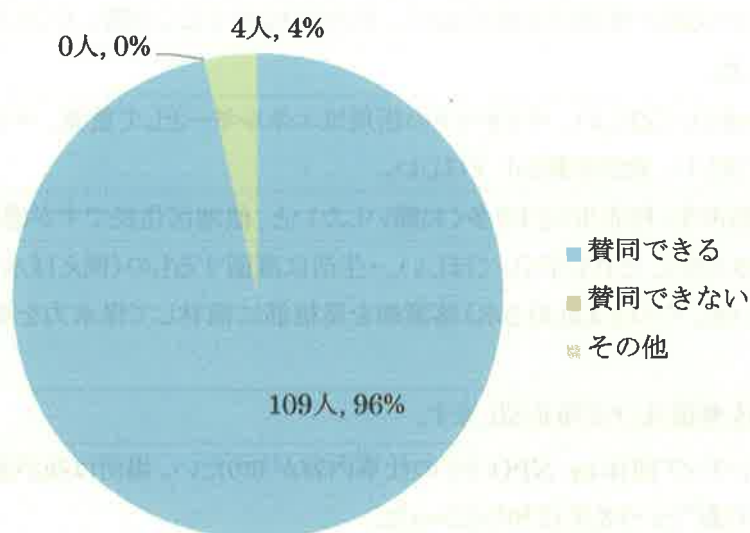
- 「講師の皆さんは「森との関わり」をわかりやすく説明して頂いた」
- 「神奈川県西地区の活動にいかしたい」
- 「近辺に住んでいたら参加したい」
- 「バイオの活用・利用について具体的な話を深堀にしてほしい。」
- 「青梅林業の今昔を詳しく知りたいと思った。」

「久保田さんのように青梅の森と結びつけた話をたくさん聞きたいと思った。」
 「初めて参加しました。今後も注目していきたい」
 「青梅の森に行ってみようと思う」「バイオマスの話良い」
 「亀山先生のお話が楽しく、青梅のことを再発見したような気持ちになりました。」
 「色々な考え方、視点があり参考になった。」
 「経緯から現状までよくわかりました。」
 「初めての参加なので、大変勉強になった。」
 「亀山先生のお話が特に面白かったです。またお話しして欲しいです。」
 「まだ少し消極的」
 「木材利用に興味を持てた。もう少し詳しく知りたい。」
 「パネラーのパネルディスカッションまでの話が少し長かったのでは。」
 「面白かった。亀山さんの講演内容も素晴らしかった。森で婚活は良いね。パネリストの人選も見事です。」
 「大場氏：森の重要性は分かるが、青梅の森とどう密接に関係があるのか、その点の説明が欲しかった。」
 「西多摩自然フォーラム、久保田様の森の再生改善方法考え実績よくわかりました。もっと拡大して欲しい。」
 「晴れた日は富士山が真っ白に見えます大勢の人に散歩をお勧めします。」
 「この活動により今後の環境も対する学習の好奇心を得られた。」
 「講演の先生の話し方がとてもよかった。」

(8) 定期的なシンポジウム、イベント等の開催希望回数（回数／年）



(9) 本日のシンポジウムを受けて、青梅の森を保全していくために、適切な管理・運営を行っていくことについて、どのように思われますか？



その他:

「バイオマスの活用することで継続可能」

「メモを取れる様に机等を検討すべき。司会(進行)の人の紹介がない。青梅の森林は、どうあるべきかのテーマでシンポを考えてもよいのでは。」

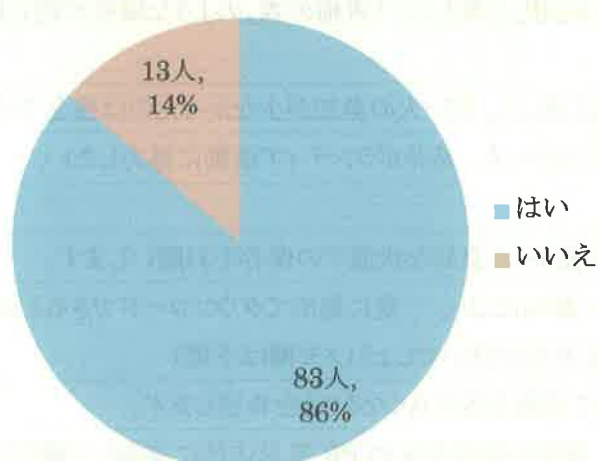
「青梅の森の保全活動の具体的な話が欲しかった。」

「シダ植物の保護」

「木を材木として活用を」

「主導される人々次第と考える」

(10) 今後、青梅の森に関する情報発信を検討しています。配信をご希望されますか？



(11) 青梅の森に関して、ご意見、ご要望等がございましたら、以下にご自由にお書き下さい。

青梅の森のバイオマスとしての実際の事例が出来てきたら、市のHPなどで広く公開してください。
大変興味深く参考になりました。
活動についての情報発信を多くしてほしい。バイオマスの活用はエネルギーとして重要。バイオマスについて行政(政治)が動いてほしい。政治を動かしてほしい。
今回のような企画・機会(自然再生・利活用)をより多くお願いしたいと、他地区住民ですが感じました。 ・多くの人にPRする事が大事と思う、それも早くしてほしい。 ・生活に直面するもの(例えば水資源の問題加えて欲しい、消毒しない水、そのまま飲める水) 落葉樹を尾根筋に植林して保水力を高め、水を飲料出来る様に！！
長淵の森についても散策路を整備及び広報希望します。
現在青梅の森に対するボランティア団体 or NPO とその仕事内容が知りたい。場所は我が家の近くなのでよく知っていたが”青梅の森”という名前は知らなかった。
青梅の森の北東側にあたる所に住んでいます。そこで伐採された木はそのまま放置されています。青梅の森の中も大切ですが外側にあたる区域も整備して欲しいです。バイオマスにつながる話興味ありました。
森のあり方について危機感を感じていましたが、シンポジウムに参加して身近なところから行動を起こして、考えていくことを実感しました。本当の意味での豊かさを考えるきっかけとなり、有意義な時間を過ごすことができありがとうございました。
一度行ってみたい。久保田先生の講演会があれば教えてください。もっとお聞きしたいと思います。
早く整備を進めてほしい。進捗状況を広報で毎月知らせてほしい。貴重な生き物が生息できる環境を整備して欲しい。情報発信、啓発活動の基地となる自然学習センターをつかってほしい。
昔、私たちが住んでいた懐かしい民家のある青梅の森に成る様もう少し下刈りなど多めにした方が？
野山北六道山公園のようになってくれたらうれしい。(入口がいっぱいある)木材資源利用は行政・自治体が積極的にモデルになるようどんどん利用して欲しい。「青梅の森」のような場所が地元であって幸せです。
青梅に住む人たちの期待の大きさを強く感じました。若い人の参加が少なかったのは残念ですけど。こんなに素晴らしい自然環境があるとは知らなかった。是非ボランティア活動に協力したい。
青梅の歴史その他とても勉強になりました。
青梅の森の存在は心強く思います、行政の面からも良好な状態での保存をお願いします。
本日の各種スライドですが小さく印刷されて読みにくい。一堂に集めてダウンロードできるようにしてほしい。スライド印刷も1頁4面ぐらいに大きくした方が良いでしょう(メモ欄は不要)
青梅を再発見しました。青梅の森に始まって青梅全体が良くなることを希望します。
ボランティア活動の大切さを感じています。活動の運営状況の PR 等具体的に実施して戴きたい。
自然好き、歴史好きになり、青梅の森も大好きになりたい。

キノコの生える林にすべきである。生えていない。数年にわたりキノコ観察の先生を行ってきた(おそらく D 地区あたり)キノコは全く少ない。トンボの聖地も作りたい(谷があり、池がある)強引に他の木も植えるべき、ミズナラ、クリ、クルミ、ブナ等。
子供が小さい頃は身近な自然の中へ遊びに行くことも多かったが最近は何も歩くこともなく”青梅の森”の存在すら知らなかった。今回はプレゼントのオリーブの苗木が欲しくて申し込んだが出席して色々なお話が聞けて青梅の森に関心を持ちました。
青梅の森のハイキングコース等があったらお知らせください。(時間、km)
ボランティア活動への個人としての参加方法を具体的に知りたい。下草刈り、伐材(間伐)、植林等、体験型で光が入る森に出来れば良いと思います。六銅山の様に里山民家を設けて色々なイベントが出来る様にしてほしい。
たくさんの方々のお話有難うございました。久保田さんの具体的なお話興味があります。テーマ別に勉強会があってもよいのかもしれませんが。(高齢の方には時間がのびるのはつらいかもしれません)
具体的な活動計画(公共的な活動内容とマイルストーン)を明示されるとよい。
青梅には大きな宝、小さな宝の原石が多くあるので、皆さんで磨いて行きましょう。
活動団体の横の連絡を取ってもらいたい。複数団体で日程が重なることが多いと思う。
とても参考になりました。色々なケースを想定し青梅の森を策定して下さい。
自然保護に力を入れて下さい。
青梅の森を未来に残せる財産となることを願いたい。
今後とも人間が手を入れていくことが必要(人と共存)。
大変勉強になった。今後は是非協力していきたい。
ボランティア活動も必要と思うが、官民共同?市民参画?市の予算の節約と思ってしまうような、ボランティア依存では困る。(と書いていたらP. ディスでそんな事が発表されていた)自分たちの大事な森=宝という意識で参加出来たらいいですね。そう意識の変化出来たら、積極的になります。
青梅の森を使った小中学校の学習が、青梅の教育の中に位置づけられないでしょうか。そのために先生たちの研修からでも始められないでしょうか、森に学んで、森と暮らす街になったらいいですね。
森と親しんで生活していく中で、家具に使ったり、散歩に行ったりはしますが、森林資源をエネルギーとして使うところまでは今一つ実現できていません。今後は是非活用して行きたいです。
「里山」とコピーがありますが、60年代までの里山とこれからの「里山」のあり方が変わりますね。薪の利用、チップ、ペレットを利用していけますが、個人で利用していた旧里山から新里山は地域での利用になっていくのかなと思います。実りある時間でした。
運営方法の具体的な説明会を開いて欲しい。
多様な視点、取り組み方があることが実感できました。自分の出来ることから一步步取り組んでゆきたいと思います。
1. 駐車場の整備。2. 森を経済的に(生産的)プラスにして、経費の補てんにする。
自然のことが素晴らしいと思いました。また聞きに来たいと思います。

青梅の森の道のことで以前の旧道根ヶ布1丁目と黒沢側に降りる道ですが、かなり荒れています。青梅七福神めぐりの聞修院へ行く道でありますので、荒れていますので是非整備を至急やっていただきたいと思います。ハイキング道路のため全く危なすぎるので至急お願いします。隣接根ヶ布2丁目の住人ですが、ダンプ道が唯一の道です。ハイキング方々青梅の森を通って東青梅や青梅等へ行ける道がぜひ欲しいと思います。よろしくお願いします。根ヶ布2丁目は多くの住人が住みながら、成木海道が唯一の道路です。青梅の森が保全することになったのですが、隣接地区の団地ですが青梅の森に入る道もあったのですがー今はあまり利用されておらず、荒れ果てています。せつかく隣接地区にありながら、青梅の森に入る道すら荒れてはいることが出来ません。是非今までの道を整備して戴いて、団地の多くの人たちが利用できる道も整備して戴きたいと思います。ダンプがしょっちゅう通る道より、ゆったりと自然を味わいながらお散歩やハイキング方々東青梅や青梅に行く道に繋がればと思っております。よろしくお願いします。

間伐した材を暮らしの中で実際に使いたい。例えば、生ごみコンポストキットなんて販売したら欲しい。日曜大工で作る人と、組み立てコンポストの販売と選択できて組み立て加工は地元の家具・木工職人に作ってもらえば、雇用にもつながる。生ごみコンポストを各世帯で使えば生ごみ処理費用の削減につながり、その分コンポストへの助成や青梅の森の予算に回せばいいと思う。青梅の森が青梅市民だけでなく、東京都民の森として再生できたら、今ここにある自然を体感できるイベントを企画するなど都民の憩いの場として観光収入につながるのではとイメージ、妄想は膨らむ。

素晴らしい里山です。多くの人達の憩いの場になればと思います。市民の関心をより大きくしてゆく工夫。

樹木の札を増やして欲しい

青梅の教育委員会と協同して小中高校生に参加カリキュラムを作って欲しい。

防犯上見通しを確保しなければならないところもあることをお忘れなく。

バイオマスの考え方と地球温暖化の関係はどうなのでしょう、相反しませんか。

私は御岳に近いところに住んでいます。現在花粉対策等で山の木を切っておりますが、都と共同で観光のための雑木(もみじ等)を植えたらよいと思う。

亀山先生のお話は大変面白く楽しく過ごさせていただきました。うっかりして今日の申し込みを忘れて、当日の参加をさせて頂きました。そのため資料も何も頂けませんでした。とても残念な思いをいたしました。これからはしっかりしなくてはいけないと思います。

とても分かりやすい内容でした。来てよかったです。これからは公園等のイベントに積極的に参加していきます。青梅の森のこの先の事もこの様な集まる場所を持って活動状況などお知らせいただければと思います。

がんばってください。

実行には色々な困難はあると思います。力を合わせて次世代へ継がせる森にしたいと思います

育成ー活用へ(木材)

1. 山桜と桧が育つ環境がほしい。 2. あまり杉の木を伐採して欲しくない 3. 自然の森の中に少し伐採してあくまで自然のままが良い

1. 宅地開発にされなくてよかった。 2. 森をきれいにすることによって動物(サル、シカ、イノシシ、クマ)から被害を守ることが出来る

NPO 青梅林業研究グループとのリンクは？また必要ではないだろうか。◎資料に連番のページまたは講師名を記入(探すのに苦労する)

里山保全は大事、青梅市がやる事ですが、奥多摩町や埼玉県側との関係が今後もっと大事に思う。

東村山市等の様にシイタケのホダ木を使った講習会を行ってほしい

「青梅の森」に向かう都会の方々が降りる駅は東青梅 or 青梅、その駅前に「森」をイメージされる「何か」を創ってみたい

市内に住む人間は情報がともかく入りますが、いわば観光客の大勢の人に配慮して情報提示が必要と思います。

私は現在野山北・六道公園で登録ボランティアとして雑木林の管理をしています。そうした経験が活かされるのでは、また距離的にも近いので活動しやすいかと思えます

資料1 展示機器・物品



緑の募金コーナー



苗木のプレゼント受け渡し



バイオマス発電機器「Bio Lite」



薪ストーブ「火豚(ぶたストーブ)」



青梅産ペレット(東京ペレット)とペレットストーブ「きりん君」

資料2 配布アンケート用紙

◆ 青梅の森に関するアンケート調査にご協力ください ◆

差し支えない範囲でご記入ください。※該当する番号、選択肢には○を付けて下さい。

お名前				性別	男	女
ご住所	都・道・府・県			区・市・町・村		
年代	1. 20歳未満	2. 20～29歳	3. 30～39歳			
	4. 40～49歳	5. 50～59歳	6. 60～69歳	7. 70歳以上		

問1. 青梅の森の取り組みをご存知でしたか？
はい ・ いいえ
問2. 問1.で「はい」と答えた方に質問です。これまで、青梅の森を利用したことはありますか？ ※問1.で「いいえ」と答えた方は、問5へ進んで下さい。
はい ・ いいえ
問3. 直近1年間で、どのくらい青梅の森を利用しましたか？
約1回/日 ・ 約1回/月 ・ 約1回/年 ・ その他()
問4. その際の青梅の森の利用目的は何でしたか？(複数回答可)
散歩 ・ ボランティア活動(具体的内容:) その他()
問5. 青梅の森に望むことは何ですか？(複数回答可)
自然保護 ・ ボランティア活動への参加 ・ レクリエーション ・ 森林資源の有効活用 その他()
問6. 本日のシンポジウムを知ったきっかけを教えてください。(複数回答可)
広報おうめ ・ 市役所での掲示物 ・ 自治会の掲示板 ・ 友人、知人からの紹介 その他()
問7. 本日のシンポジウムに参加してみたのご感想(複数回答可)
・ 青梅の森の保全活動に参加してみたいと思った ・ 定期的なシンポジウム、イベント等の開催を希望(回/年) ・ 専門的な話が多く、わかりづらかった ・ その他()
問8. 本日のシンポジウムを受けて、青梅の森を保全していくために、適切な管理・運営を行って いくことについて、どのように思われますか？
賛同できる ・ 賛同できない ・ その他()
問9. 今後、青梅の森に関するメールでの情報発信を検討しています。配信をご希望されますか？
はい ・ いいえ ※希望される方はメールアドレスを下記にご記入ください メールアドレス:
問10. 青梅の森に関して、ご意見、ご要望等がございましたら、以下にご自由にお書き下さい。

ご協力、ありがとうございました。

